

# オゾンフリーの道

アルファアー運輸

【埼玉】アルファアー運輸（横田章社長、さいたま市西区）では、中小運送会社にはハードルが高いと言われている環境管理の国際規格ISO14001を2003年に取得。以降、エコロジー経営の方針を全面的に打ち出し、社内外の環境保全活動を推進している。モットーは「ドライバーを含めた社員の全員参加。地元の清掃活動や花壇整備などを通じて、社員の連帯感が育ちつつある。」

1987年に横田社長が自動車ディーラーから転身し、運送会社を設立。自らハードルを握り、米菓子の配送に携わる中で出会った仲間を支えられ、会社を軌道に乗せた。01年に入社し、総務を切り盛りしている横

## 社内外で環境保全活動



田恵美氏によると、「会社立ち上げの頃からの社員がいるため、家族ぐるみのお付き合いもあった。一緒に会社をつくってきたという意味で仲間意識が強い」。現在、従業員は23人で9割が大手菓子メーカーの輸

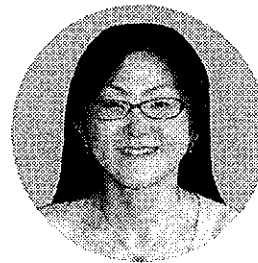
大手菓子メーカーの輸送が9割を占める

▲ 件の受注で2回の引越が発生する「など効率が良い。2世帯住宅化にかかわる受注など、堅実な事業として屋台骨を支えている。環境問題への取り組みは早かった。同業他社に先駆けてISO14001に挑戦したのは、「いずれ認証取得している会社が珍しくなくなる。同じ費用が掛かるのであれば、早く取るべき」との横田社長の考えがあったため。デジタルタコクラブも同じ03年に導入した。エコタイヤ、省エネタイプのエンジンオイルの採用など、社内の環境保全活動が定着したため、社外への展開を目指した。

近隣地域の清掃活動は、その後新居に移るため「1

## 清掃や花壇整備、社員に連帯感

初回はペナルティーだった。全員の協力がなければ起きやすいミスを防ぐため、「連帯責任」の形を取った。外部監査の際に「良い活動だから続けては」とのアドバイスを受け、現在に至っている。「全員参加で



横田氏

ないと意味がない」ため、帰庫した順に何人かで清掃に向かい、その都度、恵美氏が同行する。

清掃活動の過程で、会社裏のゴミが捨てられやすい一帯に花を植えることを思い付いた。ただ、国の土地で勝手に触れられなかった

ため、横田社長は市との交渉に奔走。昨年4月、地元自治会を通して同社が花壇の管理運営を行うことになった。ことしは6月に横田社長が耕した土に社員が分担して花を植え、もうすぐ色とりどりのポーチユラカが満開になる。

社員の誕生日には、ケーキとプレゼントを欠かさない同社だが、全員参加の環境保全活動を通して、さらに職場の仲間を気遣うようになった。「たばこを吸わないドライバーのトラックに喫煙する人が乗る場合、必ず一報を入れる」という。恵美氏は「社員が自主的に動いてくれる会社が理想。次に作業する人のことを考えて行動できるようにしていきたい」と話す。

（石井 麻里）